

2 Vol.1
 まつもとゆきひろ氏が語る
**Ruby、Rubybiz Grand Prix、
 そして島根**

4 Vol.2
 「Ruby biz Grand prix 2015」大賞は
**そうそうたる 30 事例から選ばれた
 トレジャーデータとユビレジ**

大賞

トレジャーデータ株式会社
 株式会社ユビレジ

7 Vol.3
 少数精鋭のベンチャーから、大企業のグループ会社まで
**多彩な企業が受賞した
 「Ruby biz Grand prix 2015」**

特別賞

GMO ペパボ株式会社
 株式会社マネーフォワード
 HipByte

エンタープライズパイオニア賞

ベニックスソリューション株式会社
 株式会社テクノプロジェクト



Vol.1

まつもとゆきひろ氏が語る

**Ruby、Rubybiz Grand Prix、
 そして島根**

2015年12月17日、東京帝国ホテルにて「Ruby biz Grand prix 2015」の授賞式が開催された。第1回目の今回は、ノミネートされた30事例から選ばれた7点が受賞。いずれもビジネス領域でイノベーションを実現し、新たな価値を創造しているサービスばかりである。本シリーズでは、「Ruby biz Grand prix 2015」と各賞の受賞サービスについて報告する。第1回では、審査委員長でRubyの生みの親であるまつもとゆきひろ氏に話を聞いた。

**ビジネスの創造や革新に
 Rubyを活用する7社が受賞**

まつもとゆきひろ氏が住む島根県が主催する「Ruby biz Grand prix 2015」は、その名の通り、開発の技能や新規性だけでなく、Rubyを活用して、ビジネス領域で新たな価値を創造し、イノベーションを起こしたサービスや商品を表彰するアワードである。まつもと氏は、「本アワードが、既存のRuby関連アワードと大きく違うのは、ビジネスに特化しているという点です。Rubyを活用したサービスや商品が、実際にビジネスで利用され、イノベーションを起こしているところを重視しました」と語っている。

今回は初回ながら30事例がノミネー

ト。大賞2点、特別賞3点、さらにエンタープライズパイオニア賞2点が選ばれた。厳しい審査を勝ち抜いて受賞したのは、以下の7社である。

ITProの読者なら、Rubyを使っているかどうかまでは知らなくても、おそらく何かは名前を聞いたことがある企業ではないだろうか。実際に新しいビジネスを切り拓いている企業が並んでいる印象がある。まさに、Rubyが着実にビジネスで活躍していることを印象付けるアワードであった。

**ベンチャーから
 エンタープライズまで幅広く活用**

審査委員は、まつもと氏を委員長に、オープンソース活用研究所 所長 寺田



まつもとゆきひろ氏

雄一氏、日経BP社 日経コンピュータ 編集長 中村建助氏、日本郵政 執行役 正村勉氏、Rubyアソシエーション 評議員・楽天 執行役員 森正弥氏、Rubyアソシエーション 理事・笹田耕一氏の6名で構成。公正正大な選考となるよう注意したと、まつもと氏は次のように語る。「Ruby業界は広いようで狭いので、それぞれ結構つながりがあるんです。なので、利害関係のある企業については、その審査委員は投票権を放棄し、公平を期すようにしました」。

実は当初用意されていた賞は、大賞2点と特別賞3点の5点のみ。しかし、審査の最中、急速「エンタープライズパイオニア賞」を2点追加することが、審査委員全員一致で決まったという。その理由をまつもと氏は、「受託開発という、ソフトウェア開発においては旧来型のビジネスモデルで、果敢にRubyにチャレンジされ

大賞 トレジャーデータ株式会社
 株式会社ユビレジ

特別賞

GMO ペパボ株式会社
 株式会社マネーフォワード
 HipByte

エンタープライズパイオニア賞

ベニックスソリューション株式会社
 株式会社テクノプロジェクト





ている点を高く評価しました」と語っている。そう、Rubyはもはやベンチャーだけのものではない。エンタープライズ領域でも着実に成果を上げているのである。

今回の結果についてまつもと氏は、「受賞された7点はいずれもすばらしく、受賞に値するサービスばかりでした。また、選考に漏れたサービスも、決して劣っていたわけではありません。選考時の議論の流れや審査委員の顔ぶれが変わっていたら、違う結果になっていたことも十分に考えられます。いずれもユニークで優れたサービスであり、それだけに選考は非常に大変でしたね」と語る。

なお、受賞サービスについては、2、3回で紹介する。

楽しいプログラミングで 世の中をよりよく

そもそもRubyは、まつもと氏が1993年に開発したプログラミング言語である。まつもと氏が重視したのは、「楽しくプログラミングができること」だといい、日本はもとより海外でも評価され、日本で開発されたプログラミング言語として初めて国



際規格に認証されている。

楽しいプログラミングがなぜ重要か。まつもと氏は、「一般の方は、ソフト開発はコンピューター相手に黙々と行う仕事だと思われるかもしれませんが、それは違う。非常に人間的な仕事です。ほとんどのソフトは人間が使うものであり、開発者は、コンピューターの先の人間を見ている。そして、利用シーンなどを考えながら、コンピューターにわかるように手順をまとめていきます。こういう活動は極めて人間的で、その品質や作業効率、人間のコンディションに大きく左右されます。Rubyは、あまり余計なことに気をつかわずにプログラミングができるので、よりよい状態でコンピューターに向かうことができる。仕上がりがよくなり、その成果で世の中がもっとよくなっていく、というポジティブなフィードバックが起きる。おそらく、そういうところが支持されたんだらうと思います」と語っている。

まつもと氏がRubyを発表したのは1995年12月21日。この授賞式は、4日後に発表20周年を迎えるというタイミングで行われた。まつもと氏は、「当時はプログラミング言語を自分でつくってみたい、今までにないものを作りたい、Rubyをつくりました。でも、正直に言えば、公開する人が多く消えていくものも多いなか、何年かやれば終わるだろうと思っていました。まさか、20年後に帝国ホテルでイベントをやることになるとは、想像もしていませんでした」と笑う。

Rubyを核とした 地域創生に取り組む島根県

Rubyのもう一つの側面は、地域創生に大きく役立っているという点だ。まつもと氏は、島根県松江市に在住し、県や市に協力しながら人づくり、町づくりに貢献してきた。たとえば、今回受賞者に手渡された表彰状は、ユネスコの無形文化遺産にも登録され、1300年の歴史を持つ



手漉き和紙「石州和紙」を利用するなど、県産品のアピールにも一役かっている。

島根県や松江市も実行委員会の構成団体として名を連ね、2011年から毎年松江市で開催されているRubyの国内最大のビジネスカンファレンス「RubyWorld Conference」は、国内外から多くの研究者や技術者を集める。また、県は、松江市中心部に近接した都市近接型研究開発エリア「ソフトビジネスパーク島根」を整備しIT企業を誘致。ソフトウェア系IT研究開発拠点「しまねソフト研究開発センター」を設置するなど、Rubyを核とした地域創生に取り組む。

これらの取り組みの結果、松江市は「Rubyの聖地」とも言われ、「ここ7、8年で、IT企業が3、40社は増えています。自治体のPRには、かなり貢献できたと思います」と、まつもと氏。さらに、松江市が中学生向けのRuby教室を開催するなど、次世代育成にも積極的に取り組んでいる。

島根県は、今後もRubyのビジネス活用を盛り上げるため、「Ruby biz Grand prix」を継続して行うことを決めており、来年第2回目を実施される予定だ。次回に向けてまつもと氏は、「選考はさらに難しくなるとは思いますが、もっと多くの企業に応募していただきたいですね。また、今回はほとんどが国内企業だったので、来年以降は海外企業にも広がっていくことを期待しています」と語った。

Vol.2

「Ruby biz Grand prix 2015」大賞は

そうそうたる30事例から選ばれた トレジャーデータとユビレジ

「Ruby biz Grand prix 2015」の授賞式は、2015年12月17日東京帝国ホテルにて開催された。エントリーされた30事例のなかから大賞に選ばれたのは、トレジャーデータとユビレジの2社である。両者はいずれもBtoBサービスでありながら、トレジャーデータはエンジニア向けのツールやサービス、ユビレジは店舗向けのPOSレジシステムと、まったくタイプが異なる。Rubyの活用範囲の広さを物語る受賞といえよう。連載2回目の今回は、みごと大賞を射止めた2社に、サービスの概要や特長、Rubyで開発したメリット、今後の展開などを聞いた。

大賞 トレジャーデータ株式会社

安価に手軽に データ処理サービスを提供

トレジャーデータは、日本人が米国シリコンバレーで創業した企業だ。シリコンバレーと東京に開発拠点を置き、その2拠点に加えて、韓国にも営業拠点を持つ。同社が今回エントリーしたのは、クラウド型ビッグデータ基盤サービス「Treasure Data Service」、データログ収集ツール「Fluentd(フルーエントディー)」、並列データ転送ツール「embulk(エンバルク)」の3つである。

Fluentdとembulkは人気オープンソースソフトウェア。トレジャーデータのエンジニアが開発したとは知らずに使っている読者もいるのではないだろうか。トレジャーデータのソフトウェアエンジニア田籠聡氏は、「当社にはこれらOSSの開発だけに従事するスタッフもいます」と語り、そのOSSコミュニティに対する姿勢は筋金入り。「今回、このOSS開発とビジネスをバランスよく行っているところが評価されたひとつのポイントだと思います」と(田籠氏)。

Treasure Data Serviceはクラウドで提供される。ユーザーは分析処理を行いたいデータをクラウドにアップし、必要

な処理を行ったうえで使いやすい形に出力可能。他のクラウドサービスとの連携も容易だ。従来データ分析システムの導入には多くの初期投資や時間がかかっていたが、これにより、安価で手軽にさまざまなデータを分析できるようになった。

その特長を田籠氏は、「大規模なデータ処理サービスは往々にして柔軟性が欠けたものになりがちですが、当社のサービスは核となるシステムの外側にも各種の分散システムを配置し、たとえば部分的に処理が失敗しても自動的にリトライするなど、使いやすいサービスとなるよう工夫しています」と語っている。

高い柔軟性と活発なコミュニティ によりRubyを選択

同社がRubyを開発言語に選んだのは、拡張性の高いソフトウェアをつくりやすいプラグインシステムがあるなど高い柔軟性を持っていたことと、国内に活発なディベロッパーコミュニティがあったからだ。実際にRubyの地域コミュニティは現在全国で45存在し、国内最大規模の年次イベント「RubyKaigi」の他に地域のRubyKaigiも全国各地で開催されるなど、ネットでのコミュニティはもちろん、リアルイベントも活発に行われている。

田籠氏は、「Fluentdもembulkも、データの入出力に関わるツールなので、

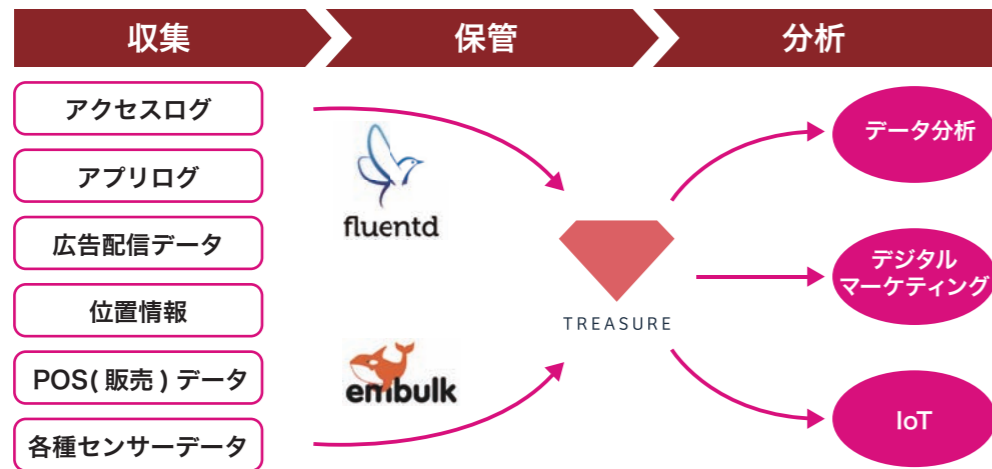


表彰状を掲げるトレジャーデータソフトウェアアーキテクトの古橋貞之氏(右)と審査委員長まつもとゆきひろ氏(左)。

多くのシステムとつながることがソフトウェアの価値と直結します。とはいえ、当社だけですべてを用意することはできません。そこで、ユーザーが簡単にプラグインをつくってつながれることが重要になります。Rubyならそれができるエンジニアが国内に多い。これは無視できないことでした」と語る。同社にはRubyのコミッターが2人在籍し、今年のRubyKaigiでは別の2人が発表するなど、Rubyコミュニティへも高く貢献している。

Treasure Data Serviceのこれからについて田籠氏は、「従来のユーザーは、インターネット系の企業が多かったのですが、最近はメーカーなど大企業でも利用が増えており、これを加速したい。またembulkは発展途上のソフトウェアではありますが、バッチ処理に適しているの

大賞を受賞したトレジャーデータ株式会社の
クラウド型ビッグデータ基盤サービス「Treasure Data Service」



審査委員長のコメント

ビッグデータはキーワードとしてよく聞かれますが、実際にどうデータを集め、どう解析するかに対して的確なソリューションを持っている企業は少ない。トレジャーデータは、ここに対して、OSSとクラウドサービスにより、一貫してサービスを提供しているところを評価した。

で、エンタープライズ利用と親和性が高いのです。さまざまなユースケースのフィードバックをいただき、より多くの方にご利用いただける準備を整えたいですね」と語る。

また、Fluentdの評価は高いが、従来サポートがないため利用に二の足を踏む企業もあった。そこで、昨年10月からサポートサービスを開始(サービス提供はSRA OSS, Inc)。ますます、利用企業の増加が期待されている。

次回応募を考えている企業に対し田



トレジャーデータ株式会社
ソフトウェアエンジニア
田籠聡氏

籠氏は、「Rubyはエンタープライズ分野では使いにくいというイメージがあるかもしれませんが、当社のようなサービスもあります。さらに利用領域を広げるためにも、BtoBサービスを提供する企業にもっと参加してほしいですね」と語った。

大賞

株式会社ユビレジ

クラウドとiPadで利用できる
POSシステム

ユビレジが受賞したサービスは、クラウドサービスで利用できるPOSシステムである。端末にiPadを利用するので高価な専用機が不要で、手軽かつ安価に利用できる。クラウドサービスなので、ソフトウェアは常にアップデートされ、最新機能を利用可能。入力データはクラウドに蓄積され、集計することでリアルタイムの経営状況を把握できるようになる。

リリースしてから約5年で活用も広がったと、ユビレジ 代表取締役社長 木戸啓太氏は、「当初のお客様は、POSシ

ステムを入れたくてもコストがネックで導入できない個人商店がほとんどでした。そういった店舗で使っていただいでご意見をいただきながら改良を続け、現在では数十の店舗を持つチェーン店や大規模チェーンの新業態などでもご利用いただいています」と語る。

ユビレジの端末を触るのは、パートやバイト学生なども多い。そのため、ユーザビリティには特に配慮しており、誰でも使えることにこだわっている。「多くの人がスマホを使っている現代にあって、POSレジの多くはレガシーシステムです。そこで、最新のiPadを使い、必ずしもITリテラシーが高いとはいえない人でも直感的に使える操作性を重視しています」(木戸氏)。

ユビレジは、POSシステムだが顧客管理機能も備え、顧客ごとの来店や購買の履歴を参照することも可能だ。木戸氏が意外に好評と語る機能は、店舗状況がリアルタイムでわかる機能。「オーナーや店長さんは外出されることも多く、いつも店の状況を気にされています。そのた

大賞を受賞した株式会社ユビレジの
POSレジシステム

POINT 1

世界初のiPadのPOSレジシステム

iPadを利用し、安価にPOSレジを導入出来ます。今までの高額な専用端末は不要です。



POINT 2

レジを打つだけでデータを即時反映

クラウド型システムなのでメニュー変更や売上データは即時反映されます。「今」どこの店舗で何がいくら売れているのか、手に取るようにわかります。



審査委員長のコメント

今までPOSデータについて考えたこともなかったような人でも、手軽にPOSシステムを使えるようにした画期的なサービス。それをRubyを使って実現しているところを評価した。



株式会社ユビレジ
代表取締役社長
木戸啓太氏

め、従来電話をかけて店舗スタッフに確認していました。ユビレジならリアルタイムの店舗状況を見られるので、簡単に外からでも確認できると好評です」(木戸氏)。

海外展開と更なる
連携機能強化を進める

同社がRubyによる開発を選んだのは、言語の柔軟性と、フレームワークRuby on Railsがありシンプルに開発できること、自社が利用しているサービスインフラがRubyを手厚くサポートしている

ことなどによる。木戸氏は、「Rubyの柔軟性は、開発スピードに大きく貢献しています。また、日本生まれの言語なので、開発者が採用しやすい、学習環境が整っているというところもメリットです」と語っている。

今回の受賞について木戸氏は、「エントリーされた30社は、そうそうたる企業が並んでおり、まさか大賞をとれるとは思っていませんでした。Ruby、クラウド、iPadを使って、開発者だけでなく、買い物に来る消費者まで含めたインフラを支えています」と語る。

ユビレジは現在アジアを中心に約20カ国で利用されている。今のところ日本人が海外で出店するケースでの利用が多いが、そこからの波及も期待できる。そのため、海外展開を進めたいと考えている木戸氏は、「端末にiPadを使っているので、商品登録や通貨設定はiPadで利用できる言語や通貨にすべて対応できます。まずはアジア圏の現地企業が導入できるスキームを構築していきたい」と

語る。

また、ユビレジは、会計サービスのfree、Money Forwardや営業支援サービスのSalesforceと連携可能で、POSデータを店舗経営・営業支援に活用できる。「この連携機能を予約台帳サービスなどと連携強化をしていきます」(木戸氏)。

最後に木戸氏は、「トレジャーデータさんは技術で勝負されていますし、ユビレジはすそ野の広い社会インフラを目指しています。このように、Rubyは多彩な使い方が可能な言語です。これからチャレンジする皆さんも、いろんなサービスを生み出してほしいですね」とエールを送った。



少数精鋭のベンチャーから、大企業のグループ会社まで 多彩な企業が受賞した 「Ruby biz Grand prix 2015」

「Ruby biz Grand prix 2015」について報告してきた本連載も、今回が最終回。今回は、特別賞を受賞した3社と、審査過程で急遽追加されたエンタープライズパイオニア賞を受賞した2社に、サービスの概要や特長、Rubyで開発したメリット、今後の展開などを聞いた。各社が口をそろえて語ったのは、「Rubyは楽しい」ということ。エンジニアが心躍る言語だからこそ、ユーザーが心躍るサービスが提供できるのかもしれない。

特別賞

GMOペパボ株式会社

流通額が1年で4倍に伸びた マーケットサービス

GMOペパボが今回エントリーしたサービスは、ハンドメイドマーケットの「minne(ミンネ)」である。個人の作家がつくったアクセサリーや衣服、ファッション小物、雑貨などをネットで手軽に購入できるサービスだ。2012年1月からサービスを開始し、着実にユーザーが増加。2015年にTVCMを開始し、同時に使いやすさを追求するため機能改修も行った結果、爆発的に利用者が増え、アプリのダウンロード数は500万DL(2016年2月16日時点)にまで増加し

た。流通額も2014年の10.6億円に対して2015年は44億円と、なんと4倍以上に増加している。今回の受賞理由について、GMOペパボ エバンジェリストの阿部雅幸氏は、「昨年以降ユーザーが急増し、ハンドメイドマーケット自体も大きく拡大しました。その可能性を含め評価いただいたのかなと思っています」と語る。

阿部氏は、minneの特徴について、「作家の方には、シンプルで使いやすく登録や販売管理を簡単に行える点が評価されています。一方の購入者にとっては、お店には売っていない一点物が手に入るし、直接作家とやりとりでき

る点が魅力です」と語っている。

エコシステムの充実と 可能性を評価

GMOペパボでは、従来主にPHPでプログラムを作成していた。しかし、Ruby on Railsを中心に、周辺ライブラリも含めたエコシステムが他の言語に比べて充実している点や可能性を評価。2011年以降、新サービスは基本的にRubyで開発するという方針を打ち出した。minneは、その2つ目のケースである。

Rubyのよさを阿部氏は、「エンジニアの活動を見ていて印象深いのは、みんなが楽しそうに開発をしていることです」と

GMOペパボ株式会社の「minne」



審査委員長のコメント

おそらくRubyに関心のないユーザーばかりが使うサービスにRubyを利用し、その野の広いユーザーに対して、Rubyで実現した優れたサービスを提供している影響力を評価した。



GMOペパボ株式会社
minne事業部 エバンジェリスト
阿部雅幸氏



表彰状を掲げるGMOペパボ 代表取締役社長 佐藤健太郎氏(右)と島根県知事 溝口善兵衛氏(左)。

語る。同社にもRubyコミッターが在籍し、他のメンバーに刺激を与えているという。このようなスターエンジニアが在籍することでエコシステムの変化にも迅速に対応でき、コミュニティへの貢献も可能となる。

人材採用にも有利と阿部氏は、「minneは積極的に投資をしている成長サービスなので、近年増加傾向にあるRubyのエンジニアにとって、魅力的に映っていると感じています。そのため、当社が必要とする人材像にマッチした人材を採用しやすい」と語る。

minneは、今後食べ物などジャンルを拡張していく予定。さらに、阿部氏は、「アプリの改良を続け、もっと楽しく、便利なお買い物体験を提供していきたい」と語る。

次回応募者に対して阿部氏は、「ビジ

ネスに特化したコンテストがあること自体が素晴らしいことだと思います。こういった取り組みによって、今後さらにRubyのサービスが増え、それに伴いエコシステムが進化するはず。ぜひ多くの会社にチャレンジしてほしい」と語った。

特別賞

株式会社マネーフォワード

人気の家計簿サービスと 急伸のBtoBサービス

マネーフォワードがエントリーしたサービスは、個人向けの自動家計簿・資産管理サービス「マネーフォワード」と、ビジネス向けに会計や確定申告、請求書、マイナンバー管理、経費精算などのサービスをクラウドで提供する「MFクラウドシリーズ」である。

350万人以上が利用する「マネーフォワード」は、出費が手軽に入力でき、銀行やクレジットカード、証券など2580以上の金融機関から自動で入金情報を取得できるサービス。マネーフォワード エンジニアの鈴木信太郎氏は「30~40代のビジネスパーソンのユーザーが多く、自動化に対するニーズが強い。そこで、自動化を追求しています」と語る。



株式会社マネーフォワード
エンジニア
鈴木信太郎氏

一方のビジネス向けクラウドサービスもユーザーを急激に伸ばしており、たとえば、「MFクラウド会計」は、既に全国1900以上の会計事務所、40万以上のユーザーが利用している。「リリースしてから約2年が経過し、最近では機能の充実に加え、業種特化型ソフトの開発や他社との連携などにも注力しています」(鈴木氏)。

今後について鈴木氏は、「マネーフォワードは、人生設計に関する機能を拡充していきたいと思っています。また、MFクラウドも新サービスを開発していきます」と意気込みを語る。

大規模で複雑なFinTechに Rubyを採用

同社は、RubyとRuby on Railsのコミッターである松田明氏が技術顧問を務め、フルタイムのRubyコミッターを採用するなど、Rubyコミュニティにも積極的

マネーフォワードの自動家計簿・資産管理サービス



審査委員長のコメント

今注目のFinTechサービスであり、銀行の暗証番号を扱うなど、かなり難しいチャレンジを、Rubyで果敢に攻めている点を評価した。コミュニティに対する貢献度も高い。



トロフィーを手に喜びのスピーチをするマネーフォワード 代表取締役社長CEO 辻庸介氏。

に関わっている。Rubyがよりよくなることで間接的に自社のプロダクト開発を加速させたいという考えから、Rubyコミッター枠の社員は直接マネーフォワードの事業にコミットせず、Rubyの開発に専念するという。

従来はPHPなどで開発していたという鈴木氏は、「Rubyは、Ruby on Railsを中心としたオープンなエコシステムが機能していて、とにかくコミュニティが活発です。何よりRubyのエンジニアは、自分で何かつくってやろうとか、コミュニティに貢献したいという思いが強い。その結果として、Rubyユーザーは充実したツール群を使うことができます」と語る。活発なコミュニティがプログラムを充実させ、そのことがさらにコミュニティを活性化するというスパイラルが機能した幸福な言語といえるだろう。

今回の受賞について鈴木氏は、「国内では、Rubyを使った、ここまで大規模で複雑なシステムはあまりありません。将来性を含め、そのあたりを評価していただいたんだろうと思っています」と語る。

次回の応募を考えている企業に対して、「Rubyの新サービスは、これからも

どんどん増えていくでしょう。ぜひ、新しいワクワクするサービスをつくっている企業に応募してほしいですね」とエールを送った。

**特別賞
HipByte**

**同一環境でiOSと
Androidアプリを開発可能**

HipByteは、AppleでMacRubyの開発者であったLaurent Sansonetti氏が創設した会社である。同氏は現在ベルギーに在住。他の3人の主要メンバーは、日本、スペイン、ベルギーに住み、ネットワークでつながりながら仕事をするという新世代の企業だ。

同社が今回エントリーしたのは、iOS、OS X、AndroidアプリをRuby上で開発できるツールチェーン「RubyMotion」。Rubyで記述されたソースコードを端末固有の機械語に変換するコンパイラと、コンパイルしたバイナリファイルや画像、音声などのリソースファイルを組み立てるビルドシステムなどが含まれている。Laurent Sansonetti氏は、「このためRubyMotionを利用して開発されたアプ

リケーションは、AppleやGoogleから提供される開発環境を用いてつくられたアプリケーションと比較しても遜色のないパフォーマンスで動作し、端末固有の機能にフルにアクセスできます」と語る。

RubyMotionは、WebアプリをRubyで開発するのと同じように、iOSやAndroidアプリを開発できる。そのため、端末ごとに言語や開発環境を切り替える必要がない。「iOSアプリもAndroidアプリも同一の言語が利用できるので、双方をスムーズに開発できます」(Laurent Sansonetti氏)。

**Rubyの素晴らしさを
モバイルアプリ開発にも**

Rubyの開発ツールを提供する同社は、Rubyの魅力を次のように語る。「Rubyは学びやすく、動的な言語なので機能を抽象化しやすい。DSLも簡単に記述でき、とてもパワフルです。エコシステムが充実しているのも素晴らしい」(Laurent Sansonetti氏)。

iOSやAndroidのアプリ開発においても、このRubyの素晴らしさを届けたいと開発されたのが、RubyMotionだ。そ



表彰後のスピーチをするHipByteのCEO Laurent Sansonetti氏。ベルギー在住。

の実現のため、「iOSやAndroidとまったく異なる環境下でもRubyでアプリケーションを開発できるよう、コンパイラやランタイム部分で環境差を吸収するように実装しています」と、Laurent Sansonetti氏は語る。

今後について、Laurent Sansonetti氏は、「現在のツールチェーンに機能を追加し、変更したコード内容がすぐに端末上のアプリケーションに反映されるようにしたり、よりハイレベルなクロスプラットフォームAPIを提供する予定です。iOSとAndroidアプリのさらなる迅速な開発をサポートしていきます」と抱負を語った。

**エンタープライズパイオニア賞
ベニックスソリューション株式会社**

**ものづくりのシステムを
Rubyで構築**

エンタープライズパイオニア賞を受賞

した川崎重工業グループのIT専門会社であるベニックスソリューション。同社がエントリーしたのは、製造業向けのRubyを使った基幹業務・エンジニアリングシステム構築サービスである。

同社は、製造業の工程管理、受注、購買、物流などのシステム構築を請け負ってきたが、一時期パッケージしか扱っていなかった。そのため、パッケージ以外を求めるグループ会社に関しては、見積もりにすら参加できない状態が続いた。

川崎重工業のホストシステムに関しては開発を行ってきたが、親会社がある撤退を決定。さらに、エンジニアリング分野の開発に取り組んでほしいという親会社の意向も受け、コスト競争力のある開発言語を探ることとなった。ベニックスソリューション 取締役 ソリューション本部 担当 倉本淳司氏は、「今からJava



ベニックスソリューション株式会社 取締役 倉本淳司氏

で開発をしても、先発企業に太刀打ちはできません。そこで、Rubyでアジャイルに取り組もうと考えました。2012年以降、新規開発はRubyを基本にしています」と語る。

**Rubyを活用して、新たな分野や
外販にもチャレンジ**

Rubyで競争力のあるシステムを構築できるようになり、従来受注していなかったカンパニーの仕事も手掛けるようになるなど、Rubyのビジネスメリットは大きい。

同社がRubyを選んだ理由のひとつは、自社の文化からとりわけ遠かったことだ。Rubyによる変革に期待したと同時に、あまり面白くない業務システムにコン

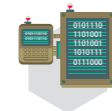
HipByteが開発した「RubyMotion」の概要



ネイティブアプリ開発

アプリはコンパイルされ、プラットフォームごとのネイティブなAPIを呼び出します。

統合されたランタイムによって、公開されているAPIセットをパフォーマンスの劣化なしに呼び出すことができます。事前コンパイルにより、アプリは最適化されたバイナリーにコンパイルされます。



クロスプラットフォーム

iOSとAndroidアプリを同一の言語と環境で開発。

プログラミング言語やIDEを切り替える必要はありません。Rubyとお気に入りのエディタを使用しましょう。プラットフォーム固有のコードを分離し、コードを共有し、またクロスプラットフォームなgemを活用しましょう。



Rubyでハッピーに

Rubyは使う人がハッピーになる言語です。

Rubyは学びやすく、また動的な機能は抽象化されたレイヤーやDSLを簡単に記述できます。より生産的に、迅速にアプリを出荷できます。

審査委員長のコメント

開発ツールを販売するというサービスが激減するなかで、特異なテクノロジーにより、エンジニアに魅力的なサービスを提供しているところを評価した。1人のエンジニアとして嬉しい。

審査委員長のコメント

受託開発分野では、なかなか新しいテクノロジーを採用しにくいなか、基幹系のビジネスシステムの構築に、果敢にRubyを利用して取り組んだ点を評価した。

ベニックスソリューションの「製造業向け Ruby基幹業務・エンジニアリングシステム構築サービス」の特長

- ・川崎重工業グループ向けのシステム開発で培った、ものづくりに関する豊富な知見と経験
- ・Rubyによる開発の豊富な経験と、Ruby Association Certified System Integrator Goldに認定された確かな技術力
- ・ユーザビリティを高める取り組み

シューマー向けの楽しい機能を追加し、そういったサービスに慣れたユーザーが満足できるシステムを構築したいという考えもあった。

同社は今後、グループ向けのIoT、スマートファクトリーといった先進システムにも、Rubyで取り組んでいきたいという。「今回はグループ向けのシステムで受賞しましたが、今後は外販にも打って出たいと考えています。関西のRubyは、ベニックスソリューションが盛り上げていきます」(倉本氏)。

最後に倉本氏は、「地道なもののづくりの分野でも、Rubyは使えます。ぜひ、ものづくりのシステムを使った事例でエントリーして欲しいですね」と語った。

エンタープライズパイオニア賞 株式会社テクノプロジェクト

Rubyによる医療情報ネットワークを ベトナムへ展開

エンタープライズパイオニア賞の2社目は、テクノプロジェクト。企業向けシステムの受託開発を行う会社として30年以上の歴史を持つ。従来COBOLやJavaでウォーターフォール型のシステム開発を行ってきた同社だが、松江市という立地から、官民挙げてのRubyの波が押し寄せた。そこで、自らその波に飛び込



株式会社テクノプロジェクト
代表取締役社長
吉岡宏氏

み、2007年Rubyを使ったシステム開発をスタート。しまね医療情報ネットワーク「まめネット」を構築した。

そして現在、島根県の医療機関にとってなくてはならないシステムへと成長した「まめネット」だが、同社のチャレンジはそれだけで終わらなかった。同システムをローカライズし、ベトナムへと展開したのである。今回エントリーしたのは、ベトナムで活用が始まった「Mame-NET」である。

テクノプロジェクト 代表取締役社長吉岡宏氏は今回の受賞について、「エンジニアの大半はエンタープライズ分野で働いています。その意味でRubyが普及していくためには、この分野で活用される必要がある。そこを評価してもらい、とてもありがたい」と喜びを語っている。

エンジニアのモチベーションと 生産性が共に向上

Rubyでの開発について吉岡氏が語るのは、やはり「楽しさ」だ。「進化を続けるRubyは、自分で米国のサイトを調べたりする必要があります。そうして格闘してつくり上げるのは、エンジニアにとって、

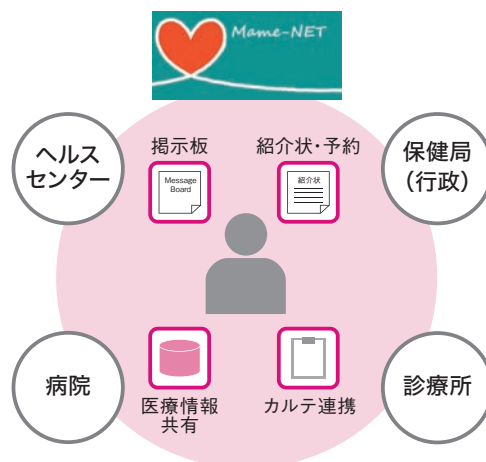


最先端に触れているワクワク感があり楽しい。生産性も従来に比べて2割くらいよくなっています」(吉岡氏)。

ベトナムのMame-NET構築プロジェクトは2011年スタートし、2015年8月利用を開始した。現在1つの行政区で、33の医療機関が参加し、通達や報告等の送受信や電子カルテの共有などに効果を発揮している。交通事情が悪いベトナムで、セキュアなネットワークで情報交換ができるのは非常に便利と、現地ユーザーにも喜ばれている。

同社は、Mame-NETのASEAN諸国への拡大を目指すと同時に、ベトナムでのRubyの普及にも尽力している。「現地の企業も興味を持っており、技術のレベルアップを支援していきたい」(吉岡氏)。

テクノプロジェクトの「Mame-NET」



審査委員長のコメント

ソフトウェア開発としては旧来型の受託開発という分野でRubyを活用し、しかも日本で始まったサービスをベトナムへ展開された点を高く評価した。